

〈令和5年度〉ミライカナエル活動サポート事業 ステップアップ支援コース

団体名	ふわふわの会
事業名	発達障がいみんなのあるあるあつめ事業
補助金額	434,000円

事業の目的

現在、成人後に発達障がいを知った方は実数すら把握されていない。市内の発達障がい傾向を持ち孤立する方々が同じ悩みを持つ人と出会い本来の自分らしく居られる場を提供し、周囲に理解を促すための材料を提供したい

事業の内容と成果・効果



〈事業の内容〉

- 8～3月：あるあるあつめ冊子編集会議（全13回/会員4～14人）
- 9月：「発達障がい者の怒り」について講義を受ける（会員12人）
- 12月：福祉フェスタ「あるあるあつめ」ポスター展示とチラシ配布
市役所内「市民活動紹介パネル展示」参加。チラシ30枚用意 反響10件内当事者会へ参加8人
- 3月：あるあるあつめ冊子発送作業（青少年センター・友好団体・18支援施設等）
1・2冊目100部 3冊目200部を配送

〈成果〉

テスト版を作成し関係先にご意見を伺うことで当初の予定を大きく変更することになった。結果8ページの冊子「あるあるあつめ」を2冊、14ページを1冊纏めることが出来た。

見やすく解りやすい構成に拘ったことで今後の冊子制作への方法が見えたことは収穫だと捉えている。また作成に際し話し合いを重ねることで、関わった方が自分自身の問題として向き合った結果、お互いの相互理解を深めることが出来た。結果として、当事者会を持ちたいとの意見が上がった。2024年1月より「発達障がい当事者会」を試みとして開始することに繋がった。本会の長年の課題であった、当事者へ声を届けるという課題へのステップアップとして何よりの成果と考えている。試作版は1ページごとのテキストとして「家族会」「市民講座」のワークショップで話題提供に活用して好評だった。発達障がい当事者会では、各々の関心のあるテーマを取り上げ意見交換ツールとして有効活用できることが分かり、今後も継続して使用してゆくことにしている。当初予想していなかった活用方法が発見でき、この活動に挑戦して良かったと話している。



事業を実施しての課題

冊子「あるあるあつめ」に関しては満足のいく物が制作できたとは思えない。当事者会に参加した方々が加わることで、専門書に有るような言葉は使わずに、より日常から発する当事者の言葉に近づけるよう、以後も拘って制作を続けて行こうと話している。イラスト製作者の発掘（当事者に依頼したい）を急ぎたい事と、編集にアドバイスを頂ける方の確保も課題として残った。